

報道資料

報道関係各位

2013 年 8 月 1 日
公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

**2013 年度「PRアワードグランプリ」
9 月 2 日からエントリー募集開始（締切 10 月 31 日）**

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：森 健）は、一般企業の広報部門やPR会社が実施するコミュニケーションプロジェクト（広報・PR活動）の事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開し、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上とパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図るため、今年度も広く「PRアワードグランプリ」のエントリーを募集します。

「PRアワードグランプリ」とは、PR技術の質的向上を目指すために、PR業務の事例を公開し評価する顕彰制度で、2001年にスタートして本年度で14回目を迎えます。今年度も会員に限らず広く一般にも募集し、多くの優秀な活動を表彰・紹介する場といたします。

スケジュールは、2013年9月2日（月）から募集を開始し、締切は2013年10月31日（木）（必着）、11月中旬（予定）の部門審査を経て、2013年12月3日（火）の最終審査会でグランプリ、最優秀部門賞、優秀賞を決定します。

広く一般の企業・団体にも、数多くエントリーしていただきたいと考えております。

※この報道資料は2013年8月1日、東商記者クラブにおいて配布されたものです。

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

●この件に関するお問い合わせ

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

担当：佐野・縮（ちぢみ）

TEL：03-5413-6760

「PRアワードグランプリ」募集概要

- ◇ 主旨
コミュニケーション活動（広報・PR活動）の事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開し、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上およびパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図る。
主催：公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
後援：経済産業省(申請中)・日本広報学会・公益社団法人 日本広報協会
- ◇ 応募作品
公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会の会員ならびに非会員の企業・団体が実施あるいは参加したコミュニケーション活動
- ◇ 対象期間
最近1年間（2012年10月～2013年9月）に成果があがった活動、または2012年10月以前から実施し、複数年にわたり現在でも継続している活動
- ◇ 応募部門
 - コーポレート・コミュニケーション部門
 - ・社会の支持と理解を得て、企業・公共機関・団体の活動を円滑に推進するためのコミュニケーション活動
 - ※ 日常的な広報・PR活動、ブランディング、レピュテーションマネジメント、危機管理対策など
 - マーケティング・コミュニケーション部門
 - ・商品・サービスの開発、市場への参入・規模拡大を望ましい形で展開していくためのコミュニケーション活動
 - ソーシャル・コミュニケーション部門
 - ・社会の重要な構成員として企業・公共機関・団体の果たす社会的役割や社会貢献はもちろん、積極的に社会の発展や環境の維持発展などを目的としたコミュニケーション活動
 - ※ CSR活動、環境コミュニケーション、NPO、NGO活動など
 - イノベーション／スキル部門
 - ・独創的なアイデアや手法で広報・PR全体の革新や個別業務の発展に寄与貢献した活動
 - ※ 理論・研究、人材育成、マネージメント、及びサービス・技術・システム・ツールなどの開発や実践
- ◇ 募集開始 : 2013年9月2日(月)～
募集締切 : 2013年10月31日(木) 必着
- ◇ エントリー方法
 - ・郵送
- ◇ エントリー料
 - ・会 員 : 10,500円/1作品(消費税込/振込手数料別途)
 - ・非 会 員 : 21,000円/1作品(消費税込/振込手数料別途)

◇ 審査方法

部門審査会、合同審査会、最終審査会の3つのステップを通じて、厳正に審査を行う。

1. 部門審査会

各部門ごとに部門審査員がエントリーシートをもとに在宅審査を行い、各自上位3作品を選出したあと一堂に会し、補足資料も参考に協議の上、各部門の上位優秀3作品を選出する。

各部門の審査員は5名で構成。審査員長は学識経験者から、審査員は昨年度の入選入賞者を中心に、企業及び団体から2名、PR業から2名。

<部門審査員> (敬称略)

■コーポレート・コミュニケーション部門 (5名)

- ・部門審査員長：井上 邦夫 (東洋大学 経営学部経営学科 教授)
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

■マーケティング・コミュニケーション部門 (5名)

- ・部門審査員長：田中 洋 (中央大学大学院 戦略経営研究科 教授)
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

■ソーシャル・コミュニケーション部門 (5名)

- ・部門審査員長：駒橋 恵子 (東京経済大学 コミュニケーション学部 教授)
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

■イノベーション／スキル部門 (5名)

- ・部門審査員長：濱田 逸郎 (江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授)
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

2. 合同審査会

4部門から選出された作品をもとに、各部門審査員長4名が一堂に会し議論し、各部門間のバラツキを検証し、最終審査会持込作品を決定する。

3. 最終審査会

最終審査会・発表：2013年12月3日 (火)

最終審査会では、部門審査を通過した作品について各エントリー企業・団体からのプレゼンテーションを行う。(1社10分)

審査方法は、①特別審査員(5名)②各部門審査員長(4名)③公募による一般審査員(1社・団体から2名まで、計40～50名予定)の審査結果を統括しポイント制によって、グランプリをはじめ各賞を決定する。

<最終審査員> (敬称略／氏名50音順)

■特別審査員 (5名)

- 阿久津 聡 (一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授)
- 猪狩 誠也 (東京経済大学 名誉教授)
- 大宅 映子 (評論家・コメンテーター)
- 田中 里沙 (株式会社 宣伝会議 取締役副社長・編集室長)
- 仲 舎菜子 (経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐)

■各部門審査員長 (4名)

- 井上 邦夫 (東洋大学 経営学部経営学科 教授)
- 駒橋 恵子 (東京経済大学 コミュニケーション学部 教授)
- 田中 洋 (中央大学大学院 戦略経営研究科教授)
- 濱田 逸郎 (江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授)

■一般審査員 40名～50名 (予定) ※PR協会会員および非会員から公募により選出 (1社2名まで)

◇ 表彰

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 「PRアワードグランプリ」 | 1 作品（表彰盾と副賞 10 万円を授与） |
| 「PRアワード 最優秀部門賞」 | 4 作品（各部門 1 作品）（表彰盾と副賞 5 万円を授与） |
| 「PRアワード 優秀賞」 | 7 作品（各部門 2 作品以内）（表彰状を授与） |

◇ 「PRアワードグランプリ」上位入賞作品を以下で紹介

- ・ PR協会Webサイト
- ・ PR協会発行のイヤーブック
- ・ 協会主催のセミナーなど

◇ 「PRアワードグランプリ」受賞者の方々には、今後のPRアワード等に関する告知・啓発活動にご協力いただく場合があります。

添付資料 1

「PRアワードグランプリ」受賞作品一覧（会社名は当時）

2012 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	もっとクロス！計画 ～日本赤十字社PR力強化プロジェクト～
コーポレート・コミュニケーション部門	大阪市交通局／(株)博報堂／(株)大広／(株)オズマピーアール	「元気な大阪」体験取材プログラムで5つのWIN それいけ！ OSAKAはっけん隊
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)電通／森永製菓(株)	森永製菓「森永甘酒」のための甘酒市場 活性化を目的としたPR活動
ソーシャル・コミュニケーション部門	ブルーカレント・ジャパン(株)	熱中症や感染症による「脱水状態」に対する正しい知識の認知 向上 教えて！「かくれ脱水」委員会

2011 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	議会広報紙のイノベーション ～さいたま市議会「ロクマル」の 挑戦～
コーポレート・コミュニケーション部門	(株)オズマピーアール	宇都宮市都市ブランド戦略プロジェクト 宇都宮プライド ～100 年先も誇れるまちを、みんなで～
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)電通 関西支社／(株)電通パブリックリレーションズ 関西支社	「アイスの実」キャンペーン 2011PR活動
ソーシャル・コミュニケーション部門	セカンドハーベスト・ジャパン	被災地 石巻へ食糧配給拠点立ち上げ ～東日本大震災直後 からの支援活動～
イノベーション部門	(株)博報堂	「マーケティング 3.0＝世の中と企業が価値を共創する時代」 のPR発想からの統合コミュニケーションプログラム「ヴィクトリー イレブンプログラム」

2010 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	小林製薬(株)	小学校のトイレピカピカ計画 ～企業・NPO・行政が一体となっ た小学校のトイレ環境を改善する活動～
コーポレート・コミュニケーション部門	キッコーマン(株)	キッコーマン上海万博プロジェクトによる日本食文化の発信
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)ワコール (株)インテグレート	ワコール エイジングケア啓発プロジェクト ～日本人女性の下 着選びの意識を変えたIMC戦略
ソーシャル・コミュニケーション部門	(株)TMオフィス	量新市場開拓プロジェクト「量ドクター」認定による量の復興PR 戦略
スキル部門	(株)電通 (株)電通パブリックリレーションズ	PR効果分析ツール「PR@NET SCOPE」(プラネットスコープ)

2009 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	北海道米ブランド創造プロジェクト
日常広報活動部門	(株)電通パブリックリレーションズ	牛乳供給危機 ～30年ぶりの乳価値上げを目指したPR活動
キャンペーン部門(単年度・単発型)	(株)arex	事故米の風評被害を受けた食品会社のレピュテーション回復 のための危機管理広報
キャンペーン部門(複数年度・継続型)	エム・エム・エス・コミュニケーションズ(株) MS&L	夕張市再生支援「夕張夫妻」プロジェクト
イベント部門	(株)電通パブリックリレーションズ	日本農産物について中国のバイヤーからの認知獲得をめざし たPR活動
ツール・スキル部門	(株)野村総合研究所	生活者視点による、新しい広報・PR効果測定サービス(ツール) の提供

2008 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	10年ぶりの改訂『広辞苑第6版』発売PR ～ネット全盛時代に「紙の辞書」の有用性を語る～
日常広報活動部門	(株)コムデックス	『魚鱗癖』の啓発活動
キャンペーン部門	日本ミシュランタイヤ(株)	『ミシュランガイド東京』発刊へのPR活動
イベント部門	ピーアールコンビナート(株)	ケルヒヤー『松田川ダム エコ・アート』プロジェクト
スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	『数字に見る医療と医薬品』(年刊)発行

2007 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株)	女性が働きやすい社会をめざして ～ダイバーシティ推進と女性活用からの学びを通じた社会貢献～
ルーティン活動部門	ピーアールコンビナート(株)	ロッテの四半世紀にわたるチューインガムの社会的価値向上活動
キャンペーン部門	キッコーマン(株)	キッコーマン アメリカ進出 50周年プロジェクト
スキル部門	(株)タカオ・アソシエイツ	広報・危機管理マニュアルの作成・発行

2006 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	ファイザー(株)	喫煙者の禁煙意識向上とニコチン依存症の疾患啓発活動
ルーティン活動部門	帝人(株)	帝人グループの認知度向上プロジェクト
キャンペーン部門	(株)電通	牛井復活に対するコミュニケーション活動
スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	中心市街地活性化に係る国民への広報のあり方に関する調査研究

2005 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)博報堂	地球温暖化防止「国民運動」
ルーティン活動部門	小林製薬(株)	更年期障害の啓発と「命の母」のPR活動
キャンペーン部門	(株)プラップジャパン	食物繊維の新たな機能「ファイバーデトックス」を訴求するコミュニケーション活動
スキル部門	(株)電通	報道レピュテーション分析プログラム

2004 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)オズマピーアール	「えひめ町並博 2004」PR 活動
ルーティン活動部門	(株)電通パブリックリレーションズ	痴呆症啓発のための調査研究プロジェクト
キャンペーン部門	日本ゼネラル・エレクトリック(株)	『地域に役立つ発明家になろう』プロジェクト
スキル部門	(株)高雄宏政事務所	広報効果測定のための報道記事分析の開発
	(株)博報堂	子どもたちの国際理解のために『日本・中国・韓国の昔話集』1～3巻を作りました

2003 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)博報堂	トヨタ ラウム ユニバーサルデザイン広報
準グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	『JICA 有名化計画』独立行政法人化・広報支援プロジェクト
準グランプリ	松下電池工業(株)	インターネットを使った「遠隔 電池教室」

2002 年度

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	浦安市 ごみ減量・リサイクル啓発プロジェクト
優秀賞	(株)オズマピーアール／(株)博報堂	丸ビルグランドオープニングを中心とした年間広報活動
優秀賞	(株)電通	カレー再発見フォーラム

2001 年度(秋)

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	ピーアールコンビナート(株)	「伊藤園 お〜いお茶 新俳句大賞」
優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	ノバルティス「すこやか 5 世代」キャンペーン 2001
優秀賞	伴ピーアール(株)	近畿 1400 万人の飲み水を美しくするヨシ。その琵琶湖 ヨシの保護と活用。

2001 年度(春)

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	(株)博報堂	「納豆 金のつぶ におわなっとう」キャンペーン
優秀賞	ピーアールコンビナート(株)	「ロッテ しっかり噛んで健康家族」
優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	食のスマートライフ実現のための調査・広報活動

添付資料 2

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 (略称：日本PR協会) について

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会(略称：日本PR協会(PRSJ)／理事長 森 健)は、1964 年に結成された日本PR協会と、1974 年に設立された日本PR業協会が 1980 年に時代に即したPRの在り方を求め、PRの啓発・普及を図るために合併統合されました。

現在は、一般企業の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに学者・有識者を含む約 500 名で組織されているPRのプロフェッショナル団体です。

主要活動としては、広報・PRパーソンの倫理の徹底や「各種研修セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、年鑑「PR Yearbook」や会員誌「協会ニュース」、PRにかかわるデータを網羅した「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営等を行っており、これらの活動を通じて「パブリックリレーションズ」の理解促進と、会員のPRスキル向上を推進しています。また、2007 年より、PRパーソンとしての知識やスキル、職能意識を有することを認定する資格制度「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外のPRパーソンや、PRに興味を持つ学生などの幅広い参加をいただいております。2009 年 10 月からは、新たに時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、広報力アップを目的とした「広報PRアカデミー」を開講いたしました。

さらに、PRプランナー資格認定制度対応テキストとして、2010 年 4 月に「広報・PR概論(1 次試験対応)」を、2011 年 3 月に「広報・PR実務(2 次・3 次試験対応)」、2012 年 4 月に「広報・PR資格試験 過去問題集(1 次・2 次・3 次試験過去問題集)」を出版し、広報・PRの普及と発展に寄与しております。

●＜参考＞PRという用語について

一部にPRは宣伝と混同されている傾向がありますが、パブリックリレーションズ(PR)とは、企業をはじめ官公庁、学校、各種団体等の組織(体)が、自らの活動に関わる多様なパブリック(ステークホルダー)との間に良好な関係を継続的に築いていくための、コミュニケーションをベースとしたリレーションズ活動です。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F
TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147